

第7回研究会

質疑応答

- マラウイ湖が国際湖であることについて、環境管理上・水産資源管理上どのようなネゴシエーションがどのようになされるか、質問があった。湖の大部分をマラウイが所有しているためにマラウイ政府による管理の影響が大きいとはいえ、国境問題も含めた難しい事情が紹介された。
- 世界自然遺産に登録されているエリアにも村が存在していることについて、どのように折り合いを付けているのか質問があった。国立公園固有の保全ルールや、観光ビジネスの影響が紹介された。
- 同じ大地溝帯のビクトリア湖には食用外来魚が導入されていることに触れ、マラウイ湖での外来魚問題の現状や危惧について質問があった。マラウイ湖では外来魚問題は発生していないが、養殖魚の逸脱などが危惧されていることが紹介され、外来魚問題はマラウイ湖シクリッド魚類の多様性を著しく低下させるであろうことが説明された。また、ビクトリア湖の外来魚ナイルパーチの導入は、食用目的ではあったが、漁獲は大手の漁業者に独占されやすく、漁獲物も地元ではなく海外に輸出されてしまうなど、必ずしも住民の暮らしを良くするものではないことが補足された。
- マラウイ湖での沿岸帯改変の可能性について質問があった。現状では、ホテル建設による湖岸の開発が主なものであること、改変によって有用魚種の繁殖の場と多様な沿岸種の生息の場が失われることなどが説明された。